



活動ごとに活動報告書を作成しています。
アシスタントのコメントから主なものを紹介します。

子供たちが、目を丸くしてマジックにみ入っている。お母さんと一緒に歓声を上げる。短いけど楽しい時間を届けられる事に、生き甲斐を感じます。(福岡地区 パーカッション 藤原隆幸)

RYUさんは、お子さんがよりスムーズにパフォーマンスできるようにその子の適切な立ち位置や、ベッド上のお子さんとは無理なくやり取りの出来る角度、ポーズをとるタイミングなどまで、さりげなく教えてくれます。言葉だけでなく、ジャグリングだったりバルーンだったりそれらがみんな子供達の声聞き出してしてくれます。それらを通して嬉しさ楽しさ達成感など一人一人違うスイッチを探し出して、子供達の驚きや満面の笑顔を誘いだしてくれます。

子供達は好奇心に素直に臨むからでしょうか、RYUさんの言葉少ないアドバイスを適切に受けてその瞬間にパフォーマーに変身できるのでしょうか。

RYUマジックにかかれば その場の親御さん達もスタッフさん達も天真爛漫。

大人達のそんな表情も子供たちが心底楽しんでいるからです。(日赤医療センターアシスタント 岩井真知子)

いつも楽しい折り紙を考えて来られ、子どもたちの集中力が途切れず、最後まで出来ることを見せて頂いています。一緒に習うのが楽しみです。(広島地区コーディネーター・リトミック 田中直子)

子供たちのつくりたい！の気持ちが溢れ、あちこちから、「青ください！」「キラキラとって欲しい」「もう一個作りたいな」「飾り取って～」と、アシスタントがもっと欲しいくらい大忙しでしたが、笑顔がたくさん見られ、楽しい時間を過ごしてもらえたと思います。

年上の子が、年下の子を手伝ってあげたり、友達と一緒に製作している姿も、とても微笑ましかったです。(国立成育医療研究センターアシスタント 加藤りえ)

リズムを使つての音楽遊びで、音を鳴らす様子が楽しそうでした。

遅れてきてくれたお姉ちゃんも終わった後もしばらく楽器を叩いて音を楽しんでいました。

帰りたくない・・・ってちょっと半バそな子がいて「楽しかったねー」ってお母さんと話していました。(北海道地区コーディネーター・ドラムサークルファシリテーター 米澤倫子)

普段から小さなお子さんと触れ合う機会の多いスーハーハーのお二人。千差万別の子供たちの反応に合わせて曲や遊びを選ぶ対応に感動します。遊びの中で散見されるちょっと不思議な子供の行動が、実は発達の大変な過程である事などもさりごとお話して、お母様たちも納得し安心されていました。今日はプレイルームに加えて個別訪問も多く、いつも以上にハードだったように思います。アーティストさんは終始楽しく丁寧に対応されていましたし、皆さんにもとても喜んでいただけたとおもいますが、アーティストさんの負担が大きくなり過ぎてはいないかと少し不安も感しました。

(愛知地区アシスタント 伊藤美由紀)



今日もいっぱい子どもたちの素敵な表情ができました！見てるだけで幸せになります。ちょっとじらすと、面白がってくれたり、ここに楽器があるよ～というところをしっかり見てくれたり。ちゃんと自己表現しています。看護師さんも写真を撮りまくっていました！（関西地区 ピアノ 豊雅子）

あいち小児でお借りした大型絵本「ぴょーん」では、マイカさんの「ぴょーん！」の声に合わせて、お母さんたちがお子さんたちと一緒に「ぴょーん！」と抱き上げているのが微笑ましかったです。ラジオでDJをされているだけあって、巧みな話術で子どもも大人も吸い込まれるように聴いていたのが印象的でした。

プレイルームの最後では、マイカさんのサイン会となり、受け取ったお母さんたちがとても嬉しそうな笑顔を見せていて、お母さんたちにとっても、とても良い時間になっていたことを感じました。また自分で書いたサインを見せてくれた8歳の女の子には、「私も小さい頃、自分のサインを考えて書いてたよ！」と声をかけていて、その子もとても嬉しそうでした。早速、マイカさんとその女の子のサインが、プレイルームに並んで飾られていました。

ベッドサイドでは、お子さんに合わせた絵本を選び、1~2冊ずつ読んでいきました。まだ生後2か月のお子さんには、マイカさんのお子さんがちょうどその頃に初めて読んであげていた絵本を選び、読んだあとにそのエピソードをお話しすると、付いていらした家族の方がとても喜ばれていました。その子もじっと聴いている様子が、そばにいた私にもちゃんと伝わってきて、そういうチョイスもさすがだなあと思いました。

担当保育士の方が、マイカさんの声のトーンや聞き取りやすさに感心され、「私も見習わなきゃ」とおっしゃっていました。

私は院内では、絵本の入ったカートを運んだぐらいのサポートしかしていないのですが、私にとっても心癒される時間でした。（愛知地区アシスタント 布野裕子）

徳島さんの文面にもあるように、最後にまた来てくれる？と言ってハグをしてきた女の子は、辛い事の多い病院生活の中で、一瞬でも楽しい時間になってくれた事を願います。

徳島ハッチーさんの多才なパフォーマンスと軽妙なトークで、子供も大人も惹きつけられていました。今いる病院という環境や境遇を忘れるくらい、パフォーマンスを見つめる瞳は生き生きとして、笑い声には力があり、楽しい、嬉しい、面白いという感情にのせた子供達の心の元気を垣間見る瞬間が何度もありました。子供、大人達の笑顔、大きな笑い声に病室に花が咲いたような明るい時間を届けられ、

笑顔が笑顔を呼んだ活動が出来ました。（日赤医療センターアシスタント 小田愛梨）

ひろみさんが語る不思議な昔話に、平さんの絶妙なギターが効果的に響きます。みんな、じっと聴き入ってひろみさんの世界に引き込まれていきました。終わった後の、みんなの、満たされた笑顔が印象的でした。（福岡地区 パーカッション 藤原隆幸）



バイオリンコンサートは廊下で聞いている親子もいてたくさんの方に来ていただけました。病床の赤ちゃんは5か月の女の子。お母さんのリクエストはディズニーということで美女と野獣を演奏。プライベートコンサートだ！！と言ってご家族が喜んでいました。（米澤）

お昼寝や検査などでせっかくのスマイルリングのお楽しみを逃すお子さんがいないようにと保育士さんは繰り返し確認してから各お部屋に案内していただきます。

が、お部屋に戻るタイミングと合わず時間内ににおさまらない時もあり今日は特別に活動終了間際にプレイルームに4家族さんが集まってそこでも演奏させていただくことになりました。

4人部屋の中でもカーテンを閉めていなければならない女の子からはアナ雪のリクエストが。

こちらからはそのお顔は見えずなくても、おお参加してる！ちゃんと楽しんでいると感じ嬉しくなります。

入院が長いお子さんのベッド周りには、ほかの日の活動のアフパンプマンの絵やクラフト作品などが飾られていてきっと目にも嬉しいことでしょう。

音楽も又形こそ残らないものだけれど、目の前でご本人の為だけに歌われた喜びと、他のお子さんのリクエストに応じて又聴こえてくる楽しみが、その時にしか体感できないもの、心がふるえるように色々なスイッチがリレーされていること、計り知れないものがあります。

男の子は卒業式で披露する為にこれから学校で習うという歌を、女の子はピアノで習ったその曲を、まさか病院で今日聞けるなんて。子供達のワクワクはどんなだったでしょう。

時には『お母様のリクエストありますか？』と眞理さんがお声をかけると、すぐには思い浮かばない時はいいですとおっしゃるものの、その瞬間はどの方も皆さん『えっ？いいんですか？』とキラッととっても嬉しそうなお顔になります。

お子さん達にも親御さん達にも嬉しい癒しの時間なのですね。(日赤医療センターアシスタント 岩井眞知子)



一部を紹介しています。

これからもアシスタントの声を追加していきます。

